

第1550号  
昭和五十二年  
1月31日  
月曜日発行  
Diretor  
Koiti Mori  
Redator  
Shoh Miyatake  
Rua 10 de  
Novembro 882  
C.Post. 112  
Fone 340  
Bastos  
E. S. P.  
Anual  
Cr. #  
85.00  
前金  
Adiant.

溪流 5

# 便所のないバス停

○バスターズのロドピアリオにWCがないので旅行者が困るといふことを本欄に書いたことがある。二年くらい前のことだったかと思うが、反響はなかった。ようだ。こんど又同じような小言とも希望ともつかぬことを耳にしたので、提言する次第だ。

○オニブスがとまると、たいていの人が便意を催してWC(トイレ)へ行きたがるが、バスターズのロドピアリオにはそれがないので、長崎さん(コンフェイタリア)のところのWCを借りるとうであるが、公衆用の便所くらいは、市で設備できないものだろうか。

○現在のロドピアリオは、故榎孝氏の区長次第、周辺の商店主有志らの拠金で建てたものだが、その当時はあれで良かったが、今日のバスターズから見ると、いかにもお寒いしろものに感じた。それだけバスターズの市街地が整備されたためであるが、もともと現在の場所は小面積で、便所を作る場所もなかったということが、当時としてはやむを得ぬ弁解であったのだろう。

○現在のロドピアリオの所有者は誰であるか、調べて見ないが、その頃の拠金者の代王の名前か、あるいは市のために建てた公共物だからと云うので、誰のものでもなく、建てた時のままになっているのかも知れない。しかし、カフェを売る店が一軒あり、家賃を収めているであろうから、受取人がある筈である。一番妥当な考えは、市の所有であることだ。現在の建物を取り払い、二階か三階を新築し、下を待合所、二階は便所、三階をパールというようにしたら、どんなものだろうか。

無論専門家に見積らせれば、何程かかるかわからぬが、かりそめにもバスターズの玄関である以上、ちつとぐらい張り込んでもよからうと考える。市の産業となれば、市長さん、市会議員さんたちが協力しないと、出来ない仕事だし、かりに賛成しても、予算を組まねばならず、到底一朝一夕に出来る事業ではあるまいが、バスターズの外観上からみても打ちすて置かれる問題であろう。ロドピアリオ周辺の方々から声の上がることを期待するものである。

示音

狸の説教

# タビテ奮闘戦記

ほんとうの牧師ならぬニヒモの説教だから「タビテの説教」である。少々まちがって「ああ、

毎度ありがとうございます

御宿泊とお食事事に  
御婚披露露宴とのお仕出しに  
御家族連の楽しいお食卓に  
日本料理とブラッソ料理  
毎本日は当店自慢のフェッジョアデ  
バスターズ名物料理



## HOTEL PRIMAVERA

Rua Pres. Vargas 271, C. Post. 60 Fone 92 Bastos

ルア プレシデンテ ヴァルガスニヒモ番  
御旅館プリマヴェーラ  
ホテル森川

電話 九二〇番  
邦函 六〇番

## FLORA BASTOS T. MORIMOTO & FILHOS LTDA

Rua Duque de Coxias 524, C. Post. 171, Fone 29

生活の安定に備えて果樹園の造成を、  
果樹園成功の秘訣は良種の苗木を植えること  
優良種の苗木なら農林省公認の農場  
フロラ・バスと森元苗木本舗で  
御相談下さい、親切に御説明いたします  
●蘭の新種、改良種など公認の知名園と特  
約して安価に提供して居ります。尚果樹苗  
の外花木、庭園樹、生け垣用、植林用、盆栽用  
鉢植用、ツツジ、ツバキ、モミジ、モクセイ、杉  
ヒノキ、等園芸用観賞用の苗木色々。

## 森元苗木本舗

電話 二九番

タスキだから」とゆるしていただく。

○前回はイスラエル人が酋長モーセに率いられて工  
ツプトを出国し、シナイ半島を流浪するくだけであ  
ったが、彼等は四十年かかってカナン地方に達し、  
酋長モーセは高齡のため、カナンを指呼の内におき  
みなから、遂に死んでしまった。イスラエル人は百  
万人にもふくれあがって、どうやらカナンの地に入  
り込んだが、彼らが父祖の地と思っていたカナンも  
蜜と乳の流れる甘い地ではなく、いつも他民族と戦わ  
ねばならなかった。

政治的には一神教であるエホバを祀り、この宗教を司る司祭達が神のお告げを民家に取次いで治世の基本としたようであり、一種の宗教国家であり、次第に裁判度に進んで、サムエルののちサウルがイスラエル初代の王となり、ダビテ時代に王制が定まり、ダビテの子ソロモンの代となると近隣を伐り従え堂々たる王国を打ち立てた。紀元前八世紀ごろと思われるが、ソロモンの父ダビテの少年時代の話を一席申上げる。

○ダビテはサウル王の臣下ヤダの息子、まだ十五、六の童子で羊飼いだつた。ある時隣国のペリシテ人が大軍を以つてサウル王のユダマ軍と対峙した事があった。

ペリシテ人の軍に「ゴリアテ」と云う巨漢が居て、身長六キユビ半というから、二メートル以上にちがいない。その上彼の武技が物凄い。頭には銅兜、身体には鉄の鎧、足には銅のすねあて、その重さは五千シケル、四、五千キロもあるうか。槍の重さが五キロとすると、武装重量だけで、普通の者なら身動きが出来まい、その上櫛をもつた兵が四、五人彼の前を進むという豪勢だから、その姿を見ただけで、サウル王の軍隊はすくみ上つてしまふ。その巨人ゴリアテがイスラエル軍に迫つて大いに叫ぶのである。

「やあやあ、遠からん者は音にもきけ、迫れば寄つて目にも見よ、吾こそはペリシテ軍の中に、その人ありと聞えたるガテのゴリアテなり。汝らの内、吾を打ち取らん者あれば我軍いさぎよく降参するが、さもなき時は汝等をしよ、びいて我軍の奴隷とするがどうだ」と、雷のような声でよばわつたり。

イスラエル軍は大いに恐れ、立ち向う者あるわけはない。皆じりじりと後退、いや逃げ走つてしまつた。その時ダビテは父の命令で、イスラエル陣に居る兄エリアブに面会し、食糧品を渡したやつて来たが、かのゴリアテの話をきくと、

「何だ、あんな野蛮人、なまじきなこといつて、こらあ。あいつをやっつけたら何か褒美をくれるのかい」

「王様から美大なほうびを下さる。王女様を嫁に下さる。家の課税は免ぜられる」

少年ダビテはおどろいて叫んだ「ようし、おれがやる」兄のエリアブは、なまじきなダビテが、と怒つたが、その事がサウル王の耳に届いて、ダビテは王の前によび出された。しかし余りにも子供なので、「お前じゃだめだ。相手は有名な豪傑ゴリアテだ。とても勝負にならん」と去つた。「だってわたしは熊や獅子を素手で打ち殺したことがあるんだ。父の子羊を熊と獅子が取つたんで、

# 土地譲ります

ゲロリアエ工区 市街地よりわずか

一キロ半の距離

ロット番号 No. 80 十アルケール

通学児童も徒歩で学校へ通えます。

家卒の都合でロットをお譲り致します。

好条件で御相談に応じたいと思ひます故

御希望のお方は直接当方へおいで下さい

委細一面談の上

ゲロリアエ工区

## 川村忠雄

わしは後を追いかけて、子羊を取り返したんだ。すると、やつらが飛びかかつて来たんで、ヒゲをつかんでねじ殺したんだ。イスラエル軍を侮辱されて、だまっていられませんか」

「そうか、ひまっとするとなんのお加護もあるやも知れぬ。では行ってこい」とサウル王は銅兜、鉄の鎧を与えたが、少年ダビテは、こんな物は身につけたことがないので、脱いでしまい、大剣も投げ捨て、杖と投石素だけ持って出かけた。途中の谷間に小石を五つばかりひろい、軍衣に入れて持っていった。

巨人ゴリアテはダビテを見て、あざ笑つた。

「何だ、なまじき杖を持つていられるじゃないか。おれは犬ではないぞ。打ち殺して空の鳥にくわしてやる」

「何をいおれには神様がつかつているんだ。汝の素っ首をはねて空の鳥にくわしてやる」

どこの国でも一騎討の時はおたごたと口げんかをするものらしく、ダビテはイヒチリンギに石をはさみ、ゴリアテの前へ進み、一発ぶつ放すと、石はゴリアテの肩間にささってどつと倒れる。ダビテは彼の体にとびのつて、彼の剣をうばい取つて首をはねた。イスラエル軍からは闘いの声の上り、大将を殺されたペリシテ軍は、なだれを打つて

逃げ、何キ口の道が死骸でうずまった。  
ダビテがゴリアテの首を抱え帰陣すると、サウル王は臣下に、あの少年は誰の子だと問わせたが、誰も知らぬので、直接王の前へ連れて来た。

「お前は誰の子か？」  
「私は王様の臣下、ベテルヘム人エサイと云う者の子です」。その後ダビテはサウル王の幕下で諸所に陣し、戦功を立てた。ところがサウル軍が凱戦した時色々歓迎した女たちが舞をまい、

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「サウルは千、ダビテは万」と唄ったのであ、余計に腹が立つのだ。  
午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

連載小説

# 蒼氓

石川連三

石川連三

門馬さんの婆さんは何も彼も気に食わないのだ。婆さんは風邪で少し熱があった。そしていつまでも勝治が佐藤の籍に入った事をぶつぶつ言った。そうしなければ移民になれない事は分っているから余計に腹が立つのだ。

午後になると又昨日の様に五階の講堂に集められて、渡航用品の詰、買物の注意、現金を移民会社か預かると云うような話があった。係員は親切で雄弁であった。

「船へ乗ったらもう皆さんの小遣いより外には一銭も要りません。煙草代と子供さんのミルク代だけ持って居れば宜しい。サントスに上陸してから汽車賃、荷物の運賃、サンパウロ収容所の経費、みな州政府が補助してくれます」と云うような話の間々には、子供が泣いたり、母親がドブあけて出て行ったりした。

お夏は講堂に居なかつた。彼女は講堂に行くような風をして弟を連れて又空へ戻って来た。門馬さんの婆さんか一人窓に坐って淋しうに遠い海を眺めていた。お夏は懐から手紙を取り出して封を切った。堀川さんからであった。綿々たる怨を筆のた手紙。自分に一言の返事もせずに行ってしまうのは余りひどい打撃ではないか。応ずるにしても拒むにしても返事くらいしてくれたいではないか。

**Organizaçao Social de Luto A Regional**  
Rua Adhemar de Barros nº 295 Fone: 361 Bastos E. S. P.  
Residencia no Local, Faça Bastos crescer prestigonado - seu comercio sobre direçao de Aparecido feliano ribeiro  
Ex. Funcionario de Funeraria São Pedro.  
artigos Funeraria prestação de serviço.  
Flores. Coloas. Veras Hossenkos. Hihai e artigos para UM BANDO em geral - Atendimento pelo INPS e FUNRRAL. Atende-se dia e noite

**葬具店**  
**フネラリアサンペードロ**  
後藤さんのガソリンポストの前で開業して居ります。高級棺まで色々、花、花輪、線香、位牌、十字架、仏式も揃えてあります。お電話で御用命下さい INPSも受付ます。  
バストス市 アデマル デバーロス街295 電話 361

おわり

系音

又帰るつもりなのか。若し帰ってくるなら何年でも待とう。

読み終った手紙をふところに入れて窓に肘をついて見る。この高い四階の窓からは三ノ宮あたりを一時に集めてその向うには港の出入りの船も霞んで見える。一年経ったら帰って来よう。きっと、きっと帰って来よう。それは弟も堅く約束してくれた事である。移民は指定された珈琲園に滿一年は居なければならぬ規定だから、それが消えたらさつと姉さんを送って一度帰って来ると弟は言ってくれた。堀川さんには消さないが、今日迄返事が出来なかったのだ。郷里を出るまでは扱はさみであった。堀川さんには移民になるとは言えないし、弟には堀川さんへ嫁入りしたいとは言えなかった。あの人は怒んでいる。きっと怒んでいるだろう。と思った。けれども彼女は泣かなかった。彼女はどんなに悲しい事があったかも知れないのだ。弟に最後の承諾を与えた日、井戸端の暮れなすむ雪の中で、紡績から帰って来た姉を弟は黙って口説いたものである。

「俺あ今日まで姉しゃんさ唯一遇も迷惑かけた事ねえべ、なー、一生のお願えだよ。その代り姉しゃんは一年きりで帰るんだ。なー」お夏は何とも言わなかった。寒さに頬が紅くて服がうるんでいた。旧正月前だったから髪を桃割りに結っていた。その髪に綿屑が白くて又その上に雪が降っていた。

「門馬さん、何て言った？」  
「賛成だ。ただ門馬さんの母さんがな、勝治さんが俺あ家の籍さ入れること反対だと。晩業に俺あ行って語つて来ッからな。その前に姉しゃんの決心がへでけれ」

隣の家で熨斗を焼く匂いが井戸っぽう迄も流れて来て、西の丘の林が真黒く暮れ落ちた。雪は響く真白い。お夏は頬の赤い二十三の娘だった。去年の秋に父を失った二人きりの姉弟である。弟は春になれば検査がある。それはもう合格に決っている。すると二年は兵隊だ。だから四月までブラジルへ出発しなければならぬ。お夏は冷えた指を四本までも口に咥えて温めた。

「ふんと門馬さんさ嫌いだば、おんりや、やあだなあ」と姉は言った。  
「大丈夫だ。て何遍言わせるんだべなあー名僕だけだ。ブラジルさ着いたら直ぐ籍返すだよ」と、弟は頬を赤くして言った。

そうしなければ行かない事はよく知っていても、何度でも念を押して見たかったのだ。彼女は堀川さんの事を思っていた。上品で思いやりがあって女工連みんな慕われている堀川さんのことを。井戸から湯気かもやまと闇の中に立ち上って、足の下で足跡が雪に凍みつく音がした。弟の頭髪は白髪に見えるほど粉雪がふっていた。風のない夜だからこの雪は朝まで凝りかもしれない。

「ンだば、お前、ええ様にしてくれ」  
彼女は「や」とそれだけ言った。それが最後の決心であった。姉思いの優しい弟の犠牲になって、恋しい人を一年の間忘れていようと誓ったのだ。その時もお夏は泣かなかった。いま移民收容所の窓に凭れて、弟の眼を盗んで男がうの怨みの手紙を読んでいても、やはり涙一つこぼさないお夏であった。返事を出したらあの人は待ってくれるだろうか。待つてくれるとも思うし、不安にも思ふ。そして港を遠く眺めながら日暮をかきえてみた。あと五日、五日たったら日本を離れるのだ。その時、煙管を横に咥えた門馬さんの姿を

# Auto Mecanica BASCAR Ltda

Rua Adhemar de Barros 275 - Fone 156 Bastos E. S. P.  
Agora em Bastos há um Oficina que voce esperava, com mecanicos especializada em VOLKS WAGEN e CORCEL retifica de motores com assistencia tecnica a preço mobico BASCAR LTDA. tudo que voce esperava de um Auto-mecanica. Agradecemos a sua preferencia;



皆さんお待ちかねの  
ボルクスワーゲン  
コルセル車  
専門のオフィシナを  
バストス市特設開業致し  
ました。  
最新最高技術を持つメカにコが、  
その手腕を駆使して舊様の愛車を絶  
対完全に修理と調整し、最高の性能  
を発揮することが出来ましよう。  
しかも安く奉仕致して居りますから  
御用命下さい。  
アマールデバローロス街二九五番  
バスカル商会  
電話一五八番

が、向うのベッドの上からぞつ、ほを向いたまよて言った。

「勝治がお前達の籍さ入らねえだつて、お前が俺あ家の籍さへった。うえかたべや」 お夏は不意を突かれどきまざして、この姿をんが怖ろしくて、おすおす答えた。

「何だか、おんりや奴が知んねえどもねはー」

講堂からどかどかと雪崩れを打って降りて来る足音が聞こえて来た。夕食の後に三時間はかりの外出が許された。けれども予防注射の発熱を外出した者は少なかった。收容所の前の一区劃は全部が移民のための「渡船用品売店」である。それは小さな安物百貨店であり、十銭ストアである。移民達は先ず労働服を買った。それから銅釜、石鹸、洗濯盤、ゴム靴、御飯杓子から、かんの子タワシに至るまで買い求めて来る。女の筒単服を注文すると翌日は出来上る。そしてあと五日の中にはすっかり仕度が出来上って南國の故に上る。恰度、秋の中頃の晴れた日に南へ渡る燕の群れが高い雲線に巻掛いするのと同じ様に、この收容所とその附近とは移民達が放立ちの勢揃いする雲線であるのだ。

孫市は労働服を買い、お夏は緑色の筒単服を注文し、弟にかくして手紙を投函した。大泉さんは一外瓶を買った。勝田一家はすすい收容所の食事をやめてレストランでカツレツ等を食って新聞を買って帰った。彼等は久しぶりに浮世の風に当たったように元気づいていた。勝田さんの息子は帰って来ると早速マンドリンを弾きはじめた。風気味で毛布をかぶっていた堀内さんが不意に言った。  
「あんだらあ、踊りや踊らんのですか」

ダンスの出来る者は誰もなかった。

「ブラジルレヤあよう踊りますよ。土曜日の晩やこもう、黒ん坊も半黒も一緒くたになつてダンスしますかなあ。何か面白いかと思えますがなあわしらあ」と彼が言った。

「日本人も踊りますか？」と妻子が聞いた。

「へえや、日本人は踊りません。まして踊らんのじゃあもう黒ん坊が言いますがな」 勝田は爪楊子を使いながら新聞を開いて、ふむと覗りながら、一十九百円、一万二千五百円、と購買用をした。それから又堀内さんま相手に機嫌を始めた。この日の報生系の新聞保証法の条件が正式に発表されたのである。

「どうですれはあ。え？ 政治家と言うものはこう言う事しかのらん。ねえ、こりや政友会の方のが本当ですよ。民政内閣はあんまり良くない。一寸マンドリンをやめえ」

……政友会は是を以つて境内閣の緊縮政策の行き詰りであるとし、殊に八日の赤備委員会を決定した具体的条件に至つては企業家特に金融業者の勢をうかがい、是が利益擁護に重点を置き生利業者は中小商工業者勤労農民細民階級を犠牲にした金融資本家の利益擁護の手段以外の何ものでもない事を暴露し金融界の時期を失せていた事を事実において物語るものであると見ている……と読み終え

「ねえ」と一息を吐き出した。「日本で養蚕をやっている農家は二百万あるんですよ。この二百万の農々辛苦を犠牲にしてねえーそれで農村経済が出来ますか。ねえ、緊縮政策も結構だが、緊縮の下の農家を救うのは誰ですか？百姓が一人でも助かるかね、農民が一日でも食が出来かね。ね、義務教育も義務徴税も何とやら進めようですが、それが一村当り何になる。私しゃ計算して見んが、三十円にもなりませんか。え？ 何のために此処に千人からの移民が居るかっていうと、農村が食えないからだ。その食えないのが抑々、政治家が農民百姓を愚民にしてる。移民にや二百々三百の船費を出してくれろのあ、こりや当り前だろうと私は思うー」

声が段々高くなって、新聞を叩いて一応閉じたところで堀内さんは、やはり持し毛布を引かけたまま、例のおつと口とした調子で「わしゃなあ」と岡山派で言い出した。

「移民というものは、こりやまあ、落葉あみた様なものじゃと思つておりますわい。つまり村で生きて居れなければ生きていけません。落葉の吹き溜りですらあ。それがブラジルに行つたらまた何とかなるから芽か出てなあ」

「ふん」と勝田さんは言った。そして「俺は落葉の中ではない」と思つた。四階の九号室では大泉さんが冷酒で顔を赤くしていた。

「蒸気浴は何とぬくいもんだ」

「炭ととちや得たべな」と女房が言った。

「飲んだ酒が腹の中で燃されるべしや」と妻原さんが言う二人でどつと笑つた。

「少しあつ過ぎんな」と孫市が言った。「炭だば灰ふっかければええどもしや」「んだな」と妻原さんが答えた。「とめることも火口掘ることもなんね、便利たようで不便たなしや」

そしてまた指が笑つた。バルブでスチームの調節出来る事を誰も知らなかつた。妻原さんの女房は子供と一緒に寝て、

「ヤンな気持だねは。注射で熱出たべかな」と言った。門馬さんの知つての風邪の上には注射の熱で叩きつけた程の不平等をこらえて早くからふて寝をしてた。廊下を降つた向うの空から会津若松の三浦さんが酒を飲んで歌う自慢の唄が手に取るように聞こえて来た。「何と向うは陽気だね」孫市はそう言つて小声でついで明いながら、買つて来た浴巾を着て見よつとして帯を解いた。大泉さんが「こつちやも一つやつかない」と、アルミニウムのコップ酒を左手に危く持った。妻原さんがえりみで笑つと、大泉さんやうゆうすりながらうたつた。

ハア秋田名物八盛雷煎、男房は男房は男房さるると勝田も孫市と一緒にうたつた。

能代香履、松山納豆、大館曲げわっぱ……

女房まで見て、皆でどつと笑つた。大泉さんの女房は、大夜御帳嫌だこどねけ！と言つて夫の弱れる様を笑ひ顔を眺めた。孫市は浴巾を巻終つて「どうだ節しやん、似つかぬえか？」と言つた。

「兵隊のようだと義三が言った。

「青年訓練所だべしや」と、その兄が言った。

「んだな……どうです大泉さん」と孫市が言った。妻原さんが横から聞かかけた。

「佐藤さん様を癒したかし？」

「マシだ。俺も今年……危ねくとられるとこでした。さつと合格たものだしや。おっかかくて逃げて来たようであつたわしや」

### 整体術とは

読んで字の如く、体を整える方法です。頭のとこべんかう、足の爪先きまで血液のジュンカンと良くする術です。○頭痛・リョウマチ・神経痛・不眠症・足・腰の痛み・ピンソク・肩のこり等々血の巡還から起る諸病一切が全快します。お試めし下さい。ルアマレナル フロリアノニ四九番地

電話 三二六〇

### 日本式及ブラジル式

胸像 記念碑  
墓碑 石燈籠  
石白 もち白

石材美術彫刻類一切製作  
古い墓の修理も致します

### 大西石碑工場

大西文吉 郵函 二一三番 電話 五一五番

### FABRICA de GRANITO

Av. Rio Branco % C. Post. 23, Fon: 515  
ADAMANTINA E.S.P.

### MASSAGISTA HAYANO ENOKI

Rua Marechal Floriano 249 Fone 360

1976年12月分 バストスの気温と降雨量 株式会社製糖部 測候部

項目	気温 °C	湿計 °C	湿度 %	最高 気温	最低 気温	降雨量 mm	風向	天候	要量
1	23.0	22.0	90	28.5	20.0	50.5	N	☁	10
2	26.0	25.0	90	27.0	20.0	27.1	W	☁	5
3	29.0	27.0	83	30.0	19.0		W	☁	3
4	31.0	28.0	75	33.0	20.0		E	☁	3
5	31.0	27.0	68	32.0	20.0		E	☁	7
6	31.0	27.0	68	33.0	20.0	2.0	N	☁	5
7	32.0	28.0	69	33.5	21.0		N	☁	5
8	28.0	25.0	74	31.5	22.0	4.2	N	☁	7
9	22.0	20.0	80	28.0	19.0	9.0	S	☁	10
10	23.0	21.0	60	23.0	15.0	1.9	E	☁	2
11	26.0	23.0	73	29.0	17.0		E	☁	7
12	27.0	25.0	82	29.0	20.0	3.0	N	☁	8
13	26.0	23.0	73	30.0	20.0	3.1	N	☁	5
14	28.0	25.0	74	31.5	19.0		N	☁	5
15	27.0	24.0	74	31.0	20.0		N	☁	7
16	21.0	20.0	89	28.0	17.0	3.9	N	☁	9
17	24.0	22.0	81	24.0	18.0	1.3	N	☁	2
18	25.0	22.0	73	28.5	20.0		S	☁	7
19	27.0	23.0	66	29.0	18.0		E	☁	1
20	30.0	27.0	75	33.0	20.0		N	☁	1
21	28.0	26.0	82	32.0	19.0	5.2	W	☁	7
22	27.0	25.0	82	31.0	21.0		N	☁	8
23	25.0	23.0	81	28.0	20.0	11.5	N	☁	10
24	26.0	25.0	90	26.0	20.0	56.1	N	☁	5
25	27.0	26.0	91	28.0	19.0		N	☁	5
26	28.0	26.0	82	30.0	21.0	6.0	N	☁	7
27	30.0	28.0	83	31.0	21.0	16.0	W	☁	2
28	25.0	24.0	90	32.0	20.0	20.0	W	☁	8
29	29.0	27.0	83	30.0	19.0		N	☁	2
30	28.0	24.0	67	33.0	17.0		S	☁	1
31	29.0	25.0	67	32.0	20.0		N	☁	1
合計	839.0	763.0	243.5	92.55	60.25	255.0			
平均	72%	24.5	7.8	29.8	19.4	8.2			

「逃げて来たべや」と不意に義三が言った。それは夜に憎々しげな調子だった。「馬鹿あー」、孫市は言下に強く言った。

「兵隊がおかぬえような俺だと思っか」「口では何とでも言えっからな」

「馬鹿めー、あんまり出鱈目言っな。やられるぞ」

けれども義三は屈しなかった。普般から馬鹿扱いにされて居る腹いせでもするうちに、妙に真剣になって突っかかっていた。

「俺あ覚えてるぞ。お前なんて言った？ 四月までブラジル行かねば引、張られから早く行くんだと言ねかっか？」

「言った。それが何んとしたら」と孫一が言った。

向いの室では三浦さんが何か叩きながら良い声で八木節をうたい出した。四角四面のやぐらの上こへ

「言っただけだ。兵隊さ行けば二年待たねばなんねえべ。ンだから早く行くんでねかよ」

「ンだから兵隊さ行きたくねえべ。あんまり忠義でねえぞー」「何だー」

と孫市は胡坐をかいていた片膝をぐいとよこて身構えをした。

「本気だな？ 本気だな？ 畜生！ こめえは何だ？ 弟二でねえか。弟二が忠義か馬鹿ー、姉ももんさ聞いて鬼れー！ な姉しゃん、俺あ一遍でも兵隊さなりたくねって、言っただ事あっか？」

お夏は恥かしさに頬を赤くして悲しげに弟を見上げると、やめれお前、と言った。

「姉しゃんさ聞かぬえでも分っただ」と義三は悠々として言った。「何が分っただ」と孫市はまた向き直った。

「お前はあんまり忠義でねえ事かよ」「よっじ、もう一遍言って見れー」

「あんまり忠義でねえよう」

孫市は立ち上ってベッドの縁に足をかけた。一飛びに通路を飛び越して義三に蹴りかかろうとした。どの時効つく婆さんがむくむくと起き上って、枕の下に置いてある煙管をとるといきなり義三の首筋のあたりを二つ三つ続けざまに振りつけた。義三は飛び上って壁の隅へ逃げるど首筋を押さえて、痛えな、と喚んだ。

「この甲斐性なレー」と婆さんはひと言いうと、肩をゆすってぶつぶつとつぶやきはじめた。これはひどく皮肉なやり方であった。

煙管は当然孫市を振るべきものであった。さすがに孫市を始め室中全部が呆然として身じろさもなくなった。殊にお夏は顔も上げられぬような思いがして、まだ義三と睨みあったまま呆れて突っ立っている弟の劣後眼のスポンを引張った。しんとして座の白けたところに三浦さんの八木節が陽気に聞えて来た。

「あまた女郎のあるぞの中でエ お嬢女郎の白赤こそは……」

歌が終り、拍手や、笑い声か起り、又次の歌が始った頃になって漸く表席さんが、さあ、そろそろ寝っかな、と独りごとを言ったのをきかけに、大泉さんも酒瓶を片づけ、表席さんも娘も帯を解いた。婆さんがいつまでも淋しげに肩をゆすって坐っているのにかまわず、義三も勝治も美大のシヤンとスポンになって毛布をかぶった。孫市は劣後眼を睨んで用便に立った時に調子の良い口笛を吹いて行った。然しそれは誰の身にもわごとらしく聞えていたわけがなかった。

# バストス明老会 発足一周年記念祝賀会

去る二月二十三日(日)午後一時から総合会館において、バストス明老会発足一周年を記念して祝賀会が開催された。当日は快晴で、老人連百余名の出席者が賑わった。定刻より早目に出席した老人達が互に暫くぶりの逢う瀬よろこび、新年の御慶を述べ合ったり、お互いの健康を祝福したり、出席してない友の消息を聞いたりして、和やかな雰囲気溢れていた。

昨年末以来健康を気遣われていた会長織田希音さんも早くから顔を見せ、その元気でうな委を見て老人達も愁眉を聞いたようだった。

メーザにはカラオケ・セルベージュの歌が林立し、つまみ物まで並べられてあった。定刻を少し過ぎた頃司会者である水野幸作氏の声が広声器から流れ、簡単な祝辞の後、開会の辞を会長織田さんに指名された。

残念乍らマイクがわるいのか、アンプがわるいのか知らないが、織田さんの開会の辞が明瞭に聞こえない。これは織田のただけではない。市長山中さんの演説による祝辞も、これを通訳された織田文協会長さんも同じだ。

聞きとり難い拡声器で梶山が樹さんの事業報告があり、此の発足以来僅か一年の間に催した事業の数の多いことに驚いた。慰安演劇大会、茶話会と日本舞踊、映画の夕、バストス劇団の観劇会等々であるが、その行事の多かつた事から、明老会発足以三年経過しているような錯覚を起すほどである。

最後に当日の贈り物である大福引である。出席順に渡れた番号札の番号を呼ばれ一人づつ出て行って抽籤券と交換して、その抽籤券に賞品名が記されてあり、それを貰ってくるという仕組みになっていた。中には賞品が重いのぞ、付添人が持つて来るのもあった。

この莫大な賞品は、各商社、会社銀行、組合等々からの寄贈による物である。

山市市長は今日の祝辞の中で、毎年入植祭の敬老会を併して来たが、来賓の高官方が敬老会場に集う老人達を見て、「この老人方は、どういう方か？」と訊かれたことがあり、その時私は、

「この老人方によってわがバストスが開拓されたのであるから、毎年入植祭には、この老人方を御招待して感謝の意を表するのである」と答えた。高官が、さすがは日本人である、と感動されたという。

さうに市長さんは、

「私がこの明老会員として仲間に加えて貰うまでには、今後尚三十年の歳月を必要とするのであります。この明老会を益々発展させていだけ、私も何かは会員として皆さんと共に、年一度の敬老会ばかりでなく、こうした明るく自づと和やかな会合にも仲間入りさせて貰うことを念願し、皆様の御健康と当会の益々の発展を祈ります」と言うことばもあつた。ともあれ、午後三時半開会となり、会員一同頂いた賞品を抱え、それぞれ打ち連合て家路に向つた。

## 迷信にまどわされるな

二、三日前のことであるが、差出人の書いてない封書を受取った。宛名は確かに私の名前だ。不思議に思い乍ら封を切ったとたんの中から白い硬貨一枚ころけ出て書棚の下へ転がり込んで、それきり探したが見つからなかった。

硬貨と共に一枚の紙に紫色の印刷された葡文の手紙がある。内容は、サント、アントニオかとやらで此の手紙を受取った者は四日以内に二十四人の知人にこの手紙をコピーして送り出すと幸運に見舞われるから、早速に実行せよと言うのである。

この手紙の差出人は多分私の知人であろう。それではなければ私の住所など知れる筈もないうが、差出人の名前がわからぬから文句の言っくいさようも無いが、差出人は面白半分のイタズラか、或はまた、此の通の手紙を貰い、それをそのまま信じて実行したのかも知れないが、それなら真の信仰を持たない宗教的に無智な気の毒な人に違いない。そして他人に迷惑をかけることに気付かずにいるのだろう。かりに迷信家がこの手紙を受け取って、この通り実行するとすれば、コピー代二十四人分を十クルゼイロス、手紙のコピー代が紙と手紙料で二十クルゼイロス、封筒代を計算すると三十数クルゼイロスを無駄に捨て、それを受取った人が皆三〇クルゼイロスを無駄に捨て、それを浪費して、浪費で一月程の間には何万クルゼイロスを失うことになる。最初にやっただ奴は

## バストス生長の家行事

二月 六日 白鳩会 午後一時より。

〃 十二日 教勢発展推進運動の爲め、

高崎講師、遠藤教区長バストスへ。

〃 十三日 ク、ク

誌友会例会 正后より

〃 十六日 講演会 小川久講師 夜八時

〃 二十一日 相白青合同役員会 午後八時

〃 二十八日 相白青壯若鳩合同誌友会

午後八時  
以上

## バストス生長の家誌友会

面白半分のイタスラに違いないが、昔からの誘いも言う通り、「一犬虚を吠えて万犬実を吠える」のようになり、不常に信仰心のない者がこの虚にひっかかっ

「ちいさん、あんたその手紙を買って、何処へも出さなかつたら、神さまの罰が当って災難に遭うかも知れんよ」と忠告してくれた人がある。そこで私は「罰を当てるようなのは神さまじゃなからう。そりゃ悪魔だ。悪魔を拝むこともあるまい。こういうことを信ずるのが迷信である。ほんとうの信仰とは、そんな馬鹿な事ではない。七百年の昔法然聖人は「祈って病気が治るものならば、死ぬ人一人もござなく候」とある。

「この言葉をよく察すれば、祈って幸福が得られるものなれば、不幸な人は一人もござなく候」であり、又「祈って金が儲かるものならば、貧乏人は一人もござなく候」となることを知らねばなるまい。

私の同郷で奥ソコに於いて農業を相当蓄財していた老人が、ふと友人から創価学会へ入信をすすめられ、色々な学会の印刷物を貰って研究の結果創価学会へ入会した。お宝銭箱の宗教、金のかからない宗教だから君も入会しないかとすすめるに来たこともあったが、私は先祖伝来の宗教があるので改宗は断つた。それから十年後の彼は無一物となり、満死したが、一家は離散して行方も知れなくなった。

創価学会は常に金集めの宗教ではないと説き及ぶが、お宝銭箱がないかわりに「供養金」集めがある。さい銭は信者の自発性で、それそれ自分の喜捨だが、学会では、五重塔建築、坂まんだら奉安殿新築、大講堂造営、と、そのたび供養金が集められる。なかでも彼が財産を大半以上を失くしたのは昭和四十年、創価学会正本堂建立の際であったという。創価学会の池田会長は、

「本堂が完成するまでには、各々の運命も決つてしまふ。未永永劫の幸福の因となる、この供養に参加して、大きな功德をつかめ」と宣伝に努め、十月九日から十二日までのわずか四日間、三百六十億円もの大金を会員から集めていたことが、「現代」誌の昨年七月号六十七頁に記されている。こうした大金集めは他宗のさいせん箱ではとうてい不可能だろう。それ膨大な出版物である。聖教新聞と公明新聞を会員は普通三都、五部、多い人は百部もとっている。多額数誌者もいる。これも多額とればとるほど、あとご功德がご利益となつてはねかえってくるという宣伝がきいたものだ。新聞の外に「大学新報」定期刊行物の「六百蓮華」「聖教グラフ」「第三文明」「公明」「折伏教典」「教学解説書」に池田会長の著書「人間革命」はかべパーバックス版「化学と宗教」「政治と宗教と、数かぎなく発行し、それが名目か非売品となつていて税金を払う必要もなく、創価学会三代目会長池田の九傑だ。

私は日蓮正宗の悪口を述べる意図はないが、創価学会の会長池田大作というエヒ生仏が情い。田中角栄前首相は五億の報酬で首相の生を降ろされたが池田大作は国民から数億億のかねをだまし取つてい

### 第六十五回バストス、ゴルフ月例会

一九七七年一月九日

氏名	フル	イン	グロス	ネット
1 能見幸雄	47	45	92	73
2 島本昇	46	40	86	74
3 吉浦イネ	47	49	96	74
4 水馬昭二	48	51	99	76
5 本山義秀	54	52	106	77
6 鶴英夫	46	45	91	77
7 大高晴男	47	49	96	77
8 島本繁雄	52	54	106	77
9 水野セイ子	51	55	106	77
10 竹原穂	49	45	94	79
11 吉浦守	46	47	94	79
12 吉川魁男	47	47	94	79
13 東幸雄	44	45	89	79
14 加藤義春	54	49	103	81
15 水野幸作	45	51	96	81
		グロス	グロス	86
		島	本	昇

### 御礼

ゴルフ用のカリニヤを、阿部五郎様から御寄附頂きました

### 総合会館使用日程表

- 二月三日 本願寺全伯婦人研習会
- 四日
- 五日
- 六日
- 七日 文協理事例会
- 十二日 プレカンナバール、バイレ
- 十四日 中央親睦会役員会
- 十九日 カンナバール、バイレ
- 二十日
- 二十一日
- 二十二日
- 二十七日 中央親睦会役員選挙

バストス日伯文化協会広報部

### フトン綿打マキナ譲り度し

十八日×五日の工場付でも御相談に応じます。

一カ月一万から二万五千クルゼロの仕事が出来ます。詳細面談

なるべくバストスの方か、ツパンの人に譲りたし

加藤 まで



# 豊富発揚氏の巻 (1)

岸本 丘 陽

マ州の荒地にダイヤを掘り  
アマソンの懸境を探険した男一匹、度胸をもとてに南米の大地  
に快腕を振った半生記

## ブラジル脱走の二等運転手

少年時代から大洋へ！ という夢に憧れて佐賀商船学校を卒業し、青い海のうねりと白い鷗を追う港々に夕焼けのようなロマンと、大洋の激浪と戦って一葉の船を操りながら、一條のコーズを進んで行くマトロソウに入つたのは紅顔の十八歳であったが時恰も日露戦争の真最中で、躊躇う長閑な航海も出来ず、海軍予備士官に招集され、仮巡洋艦乗組を命ぜられ、彰徳島攻撃に参加した。終戦後ブラジル航海の最盛期の三等運転士になって南米大陸への長途の航海をつづけたが、地球を半周して辿り着いたブラジルの山の青さ、澄み切った空の美しさと、それにも増して人間の善良さに接して地上の樂園とは斯ういふ所をいうのであらうと思つた。

男子一匹何所か暮すか一生だ。

此の南米ブラジルで今村山田長政になつて日本男子の腕を揮つて見ようと決心し船乗生活に永久に訣別し、脱走を企てたのが明治四十五年四月、二十五歳の時だつた。

滑稽であつたのは、下級船員が頻りに脱走するので、高級船員が交替で見張番に立つことになり、豊富二等運転士も昼間見張り番に付つことになり、脱走者をピストルで射つべく警戒して居たが、今夜は自分が見張られ、射たれる虞走者になるのだと思つて、昼は人の身、夜は我が身にふりかかる有為転変の世の中に苦笑せずには居られなかつた。

其の夜鳥羽玉の様な真暗闇の晩で、空には星さえも見えなかつた。眼を頭に乗せて海中に飛び込んだ水音に感付かれ、甲板の上の監視員からピストルをポンポンとぶつ放された。尚其の上のランチを出して追かけに来た。暗い晩だつたが、動くと潮が泡立って分るので、頼だけ水面に出して潮の流れに身を任せさせた。

国を出る時母が作ってくれた調巻だけ腰に巻きつけて服を全部奪つて了つて生死を天に任せ懸を殺して罵ると、ランチは直ぐ目の前に迫つて来た。艇内から怒気を含んだ声で、

「たしかに此の辺だかなア……」

「畜生つ、何処へ行きやがった」とピストルを身構えている気配が感ぜられる。ランチは其の辺を行つたり来たりして捜索しているのだが気が付かない。時間が経つにつれ、体がしびれて次第に感覚がなくなつてブーツとして海の底沈んでゆくようになつてくる。

「あゝ、もうわが生涯はサントスの海に消えてゆくのだ」と思つて二十五年の生涯が走馬燈の様に次から次へと浮んで来るのだ。海面に浮んでいる力も尽き果て波の底に沈んでゆくとした時網巻に手が触れた瞬間「発揚！ 負けては行けないよ」と母の声がはつきり耳に聞こえて来た。

つづく

# バスト又週報歌壇 第十六回分

「友と海」2

土井はやし

沈むかと思ればうねりに盛り上る沖のボートは  
見ていさぎよし

脈搏の揺ゆることなき海原か打寄す波の渚に白  
き

訪ねきし幸友と相寄りて歩む渚はどこまで続く  
沖合にとれし魚を売りさばく渚道くに机を据え  
て

打ち寄する波を背にして魚を切る漁師の腕に鱗  
貼りつく

三代の帝につかえしつわものと白髪頭の胸張り  
ていう

新時代の流行なれば婦人誌に色鮮かなミニの門  
松

衰庭に数うるほどの実をつけし葡萄に嫁の丹精  
こもる

青竹の梢に風の渦巻きて潮のうねりの様を見せ  
おり

西向きに異変のありし様見せこつらなり走る雨  
雲の群

怪奇めく鯨の骨を覗て佇てり整頓されし町のム  
ゼウに

純真に学業築立つて女らへ参観の夜の燈火やきし  
雨期ながく戸棚も微の包いして古き菓子など片  
づけておく

惜しげなく取はずされし古厝想い改むること多  
かりき

美人画の唇争ぐ子の部屋に世代の流れ眩しみて  
みる

生甲斐を呼び醒すがに箱中の着きたる雛ら声揃  
え鳴く

反駁のひと日もありぬ亡き夫の生業いまに護り  
つなぎて

新年讃歌

東の空白みたり初日の出持さむと庭の露草に行  
つ

正月を楽しみに来る吾か子々に孫らの増えて狭  
き部中

浄めらるる念い湧きくる元旦に祈りをこめて雑  
煮つきやる

古稀祝う

父よりはすこに四歳を生きのひこつつがもあら  
ず古稀迎う年

宮 武 勝 南

Aviso de Cine Pastos

一月三十日(日)九時半 三十一日(月)八時 監督 鈴木則文  
 東映 総天 **トラップ野郎** 菅原文太 春川まさみ  
 然色 夏純子 佐藤允 その他

(菅原文太の新シリーズ) ハンドル振りや11トンの国産車、命二つの尊厳、天トラップ、  
 二月四日(金)八時 五日(土)九時半 監督 山口和彦  
 東映 総天 **銀蝶渡り鳥** 梶芽衣子 梅宮辰夫  
 然色 渡瀬恒彦 石井高子  
 おとり刀で初の見参、渡り鳥です、梶芽衣子第一回主演作品、

二月六日(日)九時半 七日(月)八時 監督 栗原文太  
 東映 総天 **果敢言対組織暴力** 菅原文太 梅宮辰夫  
 然色 松方弘樹 金子信夫  
 やくざ社会にどぶ入りついで追ひまわることでも刑事争、暴力団派閥作戦の無自覚、終盤と悪徳の陥穴でもかく狡猾、

二月十一日(金)八時 十二日(土)九時半 監督 坪島孝  
 東宝 総天 **愛のきずな** 園まり 原知佐子 千石規子  
 然色 藤田まこと 山添花光 堺左千夫  
 佐藤允 左とん平 小栗一也  
 私をひとりになしなして、はじりこの恋にふるえる、いじらしい女、男の心をまとわせる美しい人妻の、

二月十三日(日)九時半 十四日(月)八時 監督 山本迪夫  
 東宝 総天 **悪魔が呼んでいる** 酒井和歌子 今井健二  
 然色 キヤートン、闇の中に死体かまた一つ、オカリナだけが知ってる、連続殺人事件、  
 新克利 西沢利明  
 藤本孝 比林早苗

二月十八日(金)八時 十九日(土)九時半  
 東宝 総天 **絶唱** 原三浦友和 西川克巳監督  
 然色 原作大江賢次  
 此のシネマは名作物でお見逃のまいらう

御礼

私方長男徳男侯、昨年十一月十三日  
 帰省の途中自動車事故の爲めマリン  
 了、サンタ、カーザに於て負傷手当  
 に十日程入院後、自宅にて療養中  
 ございましたが、昨今殆んど全快致  
 しました。  
 皆様方に御心配を戴き且つ又御鄭重  
 なる御見舞を賜わり誠に有難く遅延  
 乍ら快方の御報告を兼ね厚く御礼申  
 上げます。

一九七七年一月二十六日

中 浦 成 一

各位様

NOSSA RELOJOARIA  
 TAKAM SHIBATA Rua Ad. de Barros 213, Fone 154

卒業・入学・進学祝いの  
 プレゼンテには

高級腕巻時計が一番です  
 又ポケット用電算機、高級万年筆  
**カラーテレビ**

テレビの放映は全部コロイドになりました。コロイド  
 放映はカラーテレビで見なければ三分の一の価値  
 もありません。カラーテレビは色が美しただけでなく  
 キメが細かく、音質がすぐれています。  
**ステレオグラブドル**

レコードもテープも全部ステレオになりました。  
 ステレオのマキナで聞かないと、これも三分の一以下  
 の価値しかありません。ステレオデッキは、  
 レコード・テープ・グラブドルも揃えます。  
**カザメントのプレゼンテ**

結婚式のお祝品を豊富にとそろえてあります。  
 アデマルデ パーロス街 ニー三番地  
 レロージョアリアタカミ

柴田時計店

電話 一五四番